

---

# 天～晴れのち雨～

紫桜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

天々晴れのち雨々

### 【Nコード】

N2170C

### 【作者名】

紫桜

### 【あらすじ】

わかってもらえない、でも自分はわかっているつもりでいた……。

## （前書き）

大空へ最初の記憶へ（友達へ最初の記憶へ）の続きです。

僕は拾われてこの家の子になった時から今まですごく幸せな日々を過ごしている。

“ 大空 ”（ソラ）という名前も付けてもらったし、毎日おいしいご飯も貰える、なにひとつ不満は無い、人間の友達“ 紗奈 ”ちゃんもいるし、外には野良だけどビシソワーズや他の友達も沢山いる。

とくに紗奈ちゃんがいつも側にいてくれるだけで幸せだった。心が通じあっているから紗奈ちゃんも僕の事を理解してくれてるし、僕も紗奈ちゃんの事を理解していた。

春、紗奈ちゃんは高校生になった紗奈ちゃんは入学前に何度も僕に新しい制服を見せてくれた。そのたびに紗奈ちゃんはすごく笑顔になる、だから自然と僕も嬉しくなり、笑顔になった。

紗奈ちゃんは入学して部活にバイトに委員会、すごく忙しくなって毎日帰りが遅くなった。僕は毎日心配して紗奈ちゃんの側にいく、そしてすりよったりしたけど紗奈ちゃんは必ず「疲れてるからまた今度ね」と言って相手にしてくれなかった。最初のうちは疲れてるからしょうがないって思っていたけど最後には反応も示してくれなくなつた。

だから僕はために1日だけ家出を試みた、不安だったけど紗奈ちゃんが探しに来てくれるって信じてたし、ビシソワーズもいたから怖くなかった。でも……朝になっても迎えにきてはくれなかった。僕はきつと探したけど違う場所を探していたんだと思うことにした。でもその考えは無理があつた。だって家の近くで隠れてたんだから………どんなに思い込んでもそれは真実にはならないんだ。

僕は何事も無かったかのように家に帰った、お父さんとお母さんは心配してくれていたけど紗奈ちゃんは僕がいなくなっていたことす

ら気が付いてなかったみたいだった。

僕は思った、本当は紗奈ちゃんと僕の心は繋がっていたわけじゃないと、理解してると思っていたのは僕だけなんだと……外の沢山の友達は大バイスもくれる。『気にする事はない』と『きつと紗奈ちゃんは疲れてるだけなんだよ。』と言って励ましてくれる

ただ……一人として心から友達と呼べる人（猫）が居ない……人間の友達“紗奈”ちゃんは僕の名付け親で僕を拾ってくれた恩人。そしてなにより初めての友達だと思っていたけど、所詮は猫と人間。僕がどんなに喋りかけても僕の言葉が通じることは無い。紗奈ちゃんが落ち込んでいる時も僕の励ましの言葉は通じない、また僕の気持ちを紗奈ちゃんが理解することも無い。

僕はそれから何にしてもやる気が出なくなった。

ご飯も食べる気がおきなくなつて何日も食べてない、毛繕いも大分してないから毛はボサボサになっていた。こうして僕はどんどん衰弱していった、お父さんとお母さんはすごく心配して病院にも連れていつてくれたけどこれは僕の気持ち次第だからどうしようもないんだ……。

僕が死ぬ3日前、紗奈ちゃんが泣きながら心配してくれるようになった。僕はとても嬉しかった、やっと気付いてくれたから。

でも、もう遅いよ紗奈ちゃん、僕はもう死ぬんだから……だけど心配しないで必ず僕は戻って来るから……。『ごめんね大空……謝るから死なないで』紗奈ちゃんは泣きながら絞り出すような声で謝った。

『ありがとう、紗奈ちゃん泣かないで元気だして』僕は最後の力を振り絞って鳴いた。

10年後、紗奈ちゃんは立派なお母さんになったよ。紗奈ちゃんに

そつくりな可愛い女の子を頑張って育ててるよ。

あれから紗奈ちゃんは動物をなんにも飼ってないけど最近紗奈ちゃんの娘が猫を飼いたいってねだってるんだ、僕ももうすぐでそつちに帰れるからそれまで待っててほしいな、そしたら紗奈ちゃんまた飼ってね。

（後書き）

読んで下さってありがとうございます（\*^^\*）  
感想を頂けたら嬉しいです（笑）

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2170c/>

---

天～晴れのち雨～

2010年10月24日02時18分発行